

平成27年度 学校評価 (総括評価表)

重点課題	重点目標	評価指標 (活動計画)		評価			学校関係者評価 学校関係者の意見
		評価指標		評価指標による達成度	自己評価	総合評価	
ICT活用教育の推進	【中期目標】 教員のICT活用指導力の向上を図り、児童生徒の学習活動を充実させる。(2年間) ・全ての教員がICT活用指導力のスキルアップを図る。 ・全ての教員がICT機器を活用した学習活動に取り組む。	学校全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用指導力向上に向けた全体研修や希望研修を5回実施する。 ・ICT活用に関する情報収集および共有化を図り、児童生徒の学習活動に役立てる。 ・教員の「ICT活用に対する理解」と「ICT活用指導力の向上」について、肯定的な自己評価を80%以上得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員対象の研修会を2回、希望者のみ参加の研修会を3回実施した。要望に応じて個別の研修等も行った。 ・校外の研修会や実践例等の中から、必要な資料を提供し、学習活動に取り入れることができた。本校の「ICT活用事例」を作成し、校内で実践を共有できるようになった。 ・研修等は「知識や技術の向上に役立っている」が80%以上、「ICT活用指導力が向上した」は、90%以上の評価を得ることができた。 	A	(評定) A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の研修会実施回数や校外での研究会等への参加も多く、ICT活用のスキルアップができています。 ・個別の指導計画では、ICT活用の取り組みが手立てとして位置づけされているのが良い。iPadを使うことが目標になってしまっはいけない。授業の導入やつかみだけでも活用できている。 ・活用事例集の活用については、小・中学校の先生に発信したり、新着任の先生方の研修で使う、学部間のつながりを作っていく等無駄にならないようにする必要がある。活用事例の写真では、十分表現できない場合は、動画にするというのも良い。 ・iPadの容量不足については、ネットワークに接続できるハードディスク(NAS)に保存する方法がある。iPadの教材専用を使うと、NASに保存したファイル(動画等)、いろいろな教材、ソフトの共有が簡単に行える。 ・研修の持ち方について全体研修は効率が悪い。興味関心ごとにグループを作り、自主的に研究を進める、ICTサポーター
		各学部	<ul style="list-style-type: none"> ・教員全員がパソコンやタブレットPCで基本的な操作やアプリケーションソフトの操作ができるようになる。 ・児童生徒一人一人に対する授業等でICT活用指導計画を立て、実施する。 ・年間2回以上、事例検討会やケース会での実践報告を行い、データを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【小学部】 ・パソコンやタブレットPCでの基本操作は全員ができるようになった。iPadの簡単なアプリケーションも活用できた。 ・各児童の「個別の指導計画」にICT活用を取り入れ、実践した。 ・学部全体で行うケース会で、児童一人一人のICT活用実践を報告し、共有することができた。 	A	(所見) <ul style="list-style-type: none"> ・iPadについては基本操作と活用等の研修で、ほぼ全教職員が操作できるようになった。 ・各学部にAppleTVと大型TV(モニター)を常設することができるようになり、学習活動や研修会で活用ができています。 ・ICT機器・周辺機器の活用については、児童生徒の実態や必要に応じてPC、タブレットPC、各種スイッチ、VOCA等多様である。朝の会、学部集会、自立活動、余暇活動等で日常的に活用されている場面が増えた。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 【中学部】 ・パソコンやタブレットPCの操作は、研修会等を通じて、ほぼ全員の教員が操作できるようになった。 ・ICT活用指導計画については、各クラスや教科でどのように利用できるか等、アプリケーションソフトの選定することが主な取り組みになり、生徒個々の細かな計画は立案できなかった。 ・今年度は、ICT機器の利用の仕方を検討することや、どの教科に利用できるか等考える年になったので、事例検討会やケース会は実施できなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用事例の作成にはほぼ全員が取り組み、本校の主な活用方法が収集され 		
	【短期目標】 ・タブレットPC等端末機器の活用に関する研修に取り組む。 ・ICT活用実践事例を共有する。		<ul style="list-style-type: none"> 【高等部】 ・各教員とも、概ねパソコンやタブレットPCの基本的な操作は習得できており、研修で紹介されたアプリを使って授業の導入部分 				

		<ul style="list-style-type: none"> で興味関心を引くなど、楽しく活用することができている。 授業の中で、生徒の実態に応じた ICT の活用計画を立てて実施できている。 学部全体での事例検討会やケース会は実施できなかったが、学習グループで実践報告をもとに情報とデータの共有を図ることができた。 	A	<p>ている。今年度の実践例を全教員が共有し、今後の取り組みに向けて活用していくことができる。</p>	<p>を使って、具体的に教えてもらう等の方法がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部の段階では、卒業後を見通し、iPad 等の使用について家庭への支援が必要である。
	活動計画	活動計画の実施状況			次年度に残された課題
学校全体	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用指導力向上に向けた全体研修を2回、各学部の児童生徒の実態や教員のレベルに応じた希望研修を3回以上実施する。 児童生徒へのICT活用事例を収集し、データを共有するための書式を整える。 教員一人一人のICT活用指導力を把握するためにアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体研修は、「iPadの機能と基本操作」と「iPadの活用」等について実習形式で2回行った。希望研修は動画編集、ファイルの管理、タッチャーの自作等で3回以上実施した。校外の研修会等にも参加し、多数の実践や情報を共有できた。 活用事例を記録する共通の書式を提示し、全教職員に作成を依頼した。 年度当初に全教職員のタブレットPCについての活用状況について調査した。年度末には、評価のアンケートを実施した。 			<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の教員がICT活用指導力の向上を目指して、幅広く情報を収集したり、様々な実践例から学んだり、具体的な目標を掲げたりする。 活用事例集は、今後どのような形で活用していけるのかを考える必要がある。 iPadの容量不足等ICT機器活用に関する環境整備について。 より効果な研修会の持ち方、ICTサポーターの支援と活用について。
各学部	<ul style="list-style-type: none"> パソコンやタブレットPCの基本操作や児童生徒に必要なアプリケーションソフトの研修を実施する。 各教員が児童生徒へのICT機器の活用計画を立て「個別の指導計画」に取り入れる。 各教員がケース会等で一事例以上の取り組みを発表するとともに、事例集の様式にまとめる。 学期に1回、ホームページや学部だより等でICT活用の様子を保護者や地域に知らせる。 	<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態や学習内容により、タブレットPC用の様々なアプリケーションをダウンロードし、活用した。学部全体の研修は持たず、必要に応じて適宜個別に取り組んだ。 年度当初より、各教員が担当する教科や児童一人一人のICT機器の活用について検討し「個別の指導計画」に取り入れ、実践した。 学部全体のケース会を1・3学期末に行い、取り組みの報告と協議を行った。全教職員が一事例以上の活用事例を作成した。 「ICT活用報告」のホームページや小学部ホームページを通じて、行事、学部集会、学習活動等でのICT活用の様子を常時知らせることができた。 <hr/> <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションソフトの研修は、生徒に対して望ましいアプリケーションソフトを選定する段階の年度にしたため、実施できていない。 活用計画については、年度当初にICT機器利用に関する内容を取り入れるよう知らせていたので、「個別の指導計画」に取り入れることが 			

できた。

- ・ケース会議については実施できなかった。来年度実施する予定。
- ・学校ホームページへは、回数は少なかったが、教員研修や授業の取り組みを情報提供できた。

【高等部】

- ・生活単元学習や自立活動の授業の中でいろいろなアプリを紹介したり、操作方法を指導したりすることで使用に繋げることができている。
- ・個別の指導計画に位置づけて、計画通り実践することができている。
- ・ICT 活用事例集という形で、各教員が実践を文書にしてまとめることができた。
- ・ホームページや学部だよりで、生徒の ICT 活用の様子や実施状況を発信することができた。